



歯学部長 前田健康

口腔病理学分野教授の採用について

永年空席であった口腔病理学分野教授に田沼順一先生（前朝日大学歯学部教授）が採用されました。平成30年2月1日付。

定年退職について

予防歯科学分野宮崎秀夫教授、歯周診断・再建学分野吉江弘正教授、歯科矯正学分野森田修一准教授、口腔保健学分野八木稔准教授が本年度末で定年退職を迎えました。

平成30年度概算要求事項の内示について

平成30年度政府予算案が決定されたことにより、文部科学省より歯学部に関係する項目として以下の内示がありました。

◇基幹運営費交付金（機能強化促進分）

- ▶ 戦略① 新潟大学型質保証による学位プログラムの推進を中核とした教学システム改革<人材養成システム改革>
- ◇（プロジェクト）現代社会ニーズに応える実践的口腔医療人育成プログラム等による質保証システム構築—質保証による国内標準化教育モデルの策定・実践—

- ▶ 戦略② 「環東アジア」地域教育研究拠点形成と地域社会への還元システム構築<社会貢献システム確立>

◇（プロジェクト）国際・地域ネットワーク構築による現代社会的課題の対応—グローバル環境下で育む地域・国際医療福祉貢献—

- ▶ 戦略③ 脳・神経科学分野はじめ連携・融合研究促進のためのネットワーク型研究体制転換等によるイノベーション・システムの確立<イノベーション創出環境醸成>

◇（プロジェクト）若手研究者が集うレジリエンスな口腔保健教育研究拠点の形成ーネットワーク型教員組織の構築と実質化による総合的な機能強化ー

なお、戦略①の取組は機能強化促進経費から、基幹運営交付金化されました。

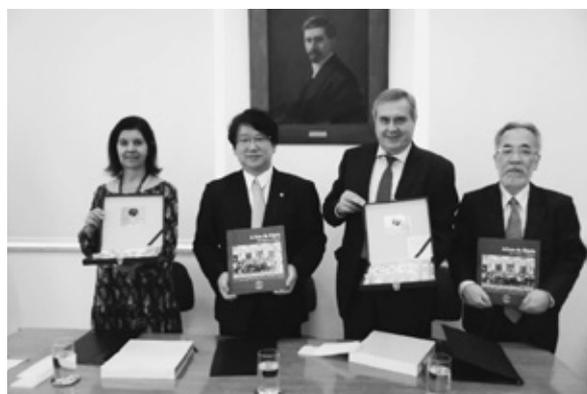
ブラジル・サンパウロ大学公衆衛生学部 ならびに歯学部との部局間交流協定締結について

歯学部ではグローバル人材育成の目標の下、国際ネットワークの構築を進め、教員の学術交流、学生の交換留学を進めています。この度、ブラジル・サンパウロ大学公衆衛生学部ならびに歯学部から部局間交流協定締結の強い要望があり、手続きを進めてきましたが、この度、手続きが完了し、前田歯学部長、魚島副学部長（国際交流担当）、平成30年2月20日にブラジル・サンパウロ市を訪

問し、部局間交流協定を締結しました。サンパウロ大学は南米のリーディング大学であり、この部局間交流協定には学生交流に関する事項も含むとともに、高齢者疫学に関する共同研究が期待されています。このほか、フィリピン・マニラセントラル大学歯学部、インドネシア・ガジャマダ大学歯学部との部局間交流協定の更新が行われました。



サンパウロ大学公衆衛生学部、歯学部との部局間交流協定の記念写真



部局間交流協定の更新（左：マニラセントラル大学、右：ガジャマダ大学）



国際共同シンポジウムの開催について

文部科学省の補助を受け、平成29年11月18,19日に台湾・台北市で、平成30年2月11,12日にインドネシア・ジャカルタ市で、国際共同シンポジウムが開催されました。

台湾シンポジウムは新潟大学歯学部と台湾・国立陽明大学歯学部との共催で、台湾の7歯科大学・歯学部の参加を得て、歯学研究のフロントランナーによる基調講演、若手研究者による研究発表が行われ、若手研究者のプレゼンテーション能

力の向上が図られるとともに、今後の国際共同研究の進展に議論が深められました。またジャカルタシンポジウムは、本学歯学部とインドネシア・インドネシア大学歯学部との共催で開催され、ASEAN諸国、オーストラリアからの参加を得て、活発な研究発表が行われるとともに、歯学部長会議が開催され、今後の研究者・学生交流について意見交換が行われました。



左：台湾シンポジウムでの記念撮影 右：ジャカルタシンポジウムでの歯学部長会議

部局間交流協定校からの特別講演招聘について

部局間交流協定締結校であるインドネシア・アイルランガ大学歯学部および香港大学歯学部から、学術特別講演を依頼され、インドネシアでは

前田健康教授と前川知樹助教が、香港では泉健次教授と照沼美穂教授が招待講演を行いました。

さくらサイエンスプランの採択

科学技術振興機構（JST）は産学官の緊密な連携により、優秀なアジア地域の青少年が日本を短期に訪問し、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指す「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」を実施しています（<https://ssp.jst.go.jp/outline/index.html>）。この度、摂食嚥下リハビリテーション学分野の井上誠教授が提案した「超高齢社会に求められる先進的歯科医学研究Advanced dental and orofacial research required in a super aged society」が、平成28年度に引き続き平成29年度第2回募集に採択されました。本取組では「世界的に高齢社会に向かっていく中で、歯科医療に求

められるのは食べる機能をもつ口腔の医療であると考え、その礎となる歯学研究について、新潟大学で行われている様々な研究を見学・体験する機会を与える」ものとして、タイ・タマサート大学から6名、台湾・陽明大学から4名の若手歯科医師・研究者を招聘しました。平成29年8月21日～平成29年8月30日の期間に来学し、摂食嚥下リハビリテーションや関連する先端歯科医学研究に関する研修を受け、帰国しました。本取組を通して、両国間との国際交流を発展させてタマサート大学からの大学院進学を実現するなど、研究成果の社会発信に今後ますますの貢献が期待されています。

文部科学省補助事業「健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム」第4回シンポジウムの開催について

本事業では、歯学教育分野で先導的な役割を果たしてきた5大学（東京医科歯科大学、東北大学、新潟大学、東京歯科大学、日本歯科大学）が国立私立の枠を超えてコンソーシアムを形成し、各大学の強みである教育資源を共有・補完することで、健康長寿を育む為のあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を担う人材養成の実現

を目指しています。本年度、本学部が当番校となり、平成30年2月9日に新潟大学歯学部講堂にて第4回シンポジウムが開催されました。基調講演として、関西大学森朋子教授による「学生の『分かった』を引き出す反転授業」が行われた後、事業報告及びパネルディスカッションが行われ、活発な意見交換がなされました。

ミャンマー・ヤンゴン大学歯学部への 医療チーム派遣

新潟大学歯学部はミャンマー・ヤンゴン歯科大学と部局間交流協定を締結していますが、Thein Kyu前学長、Shwe Toe学長より、ミャンマーで患者の多い口唇口蓋裂患者に対する医療支援が要望されていました。昨年度に引き続き、顎顔面口腔外科学分野の高木律男教授と歯科麻酔学分野

の瀬尾憲司教授による医療チームがミャンマーでの医療支援活動を開始しました。ミャンマーでは医薬品等が不足しており、いろいろな分野からの支援を必要としていますので、皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

留学生交流支援制度（短期受け入れプログラム 及び短期派遣プログラム）の採択について

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が公募していた留学生交流支援制度の採択結果平成30年度分）が通知されました。歯学部から短期派遣事業（短期研修・研究型）として応募していた3プログラムすべてが採択されました。なお、本

事業による奨学金受給には各種制限が設けられており、特に成績不良の学生には奨学金を支給できないこととなりましたので、短期留学希望者は成績向上に努めるようお願いします。

